

## 高原地域におけるイチゴ「北の輝」の夏秋穫り露地栽培

農業研究センター 高原農業研究所

担当者：小野 誠

### 研究のねらい

本県におけるイチゴは、11月から5月までの出荷が中心で、6月から10月にはほとんど出荷されていない。

そこで高原地域の冷涼な気候を活かしたイチゴの夏秋穫り(梅雨明け~9月)露地栽培について検討した。

### 研究の成果

- 1 高温時期である梅雨明け~9月にイチゴを収穫する場合の品種は、果実が硬く店もちが良く、果実が大きく、食味の良い「北の輝」が有望である。
- 2 「北の輝」は、うどんこ病に罹病しにくい。
- 3 梅雨明け~9月収穫では、気温が低い露地マルチ栽培が収量・品質向上のため適しており、栽培経費も安い。  
また、「北の輝」を用いた露地栽培は、果実および葉が硬いため台風等の災害に強く、病害の発生も少ない。
- 4 「北の輝」は、一季成り性品種であるが、苗の時に冬の低温を利用して、5℃以下の低温に1200~1500時間遭遇させると、その後の短日処理で3~4番花房まで分化するので、実用的には四季成り性品種の感覚で収穫できる。

### 普及上の留意点

- 1 普及対象は、半旬別平均気温が26℃を超えない地域とする。
- 2 「北の輝」は、低温遭遇前に苗を大きくしておくことが必要である。
- 3 「北の輝」は肥料に敏感なので、施肥量を少なくする。
- 4 マルチは表面温度が上がりにくい白色短繊維不織布などを用いる。
- 5 交配用のミツバチは必要ない。
- 6 降雨が続くときでも、メパニピリム水和剤などを散布すると、灰色かび病の発生はほとんどない。

表1 雨よけ栽培と露地栽培の9月の収量・品質

	商品果収量	糖度
	kg / 10a	%
雨よけ栽培	312	8.3
露地栽培	553	9.8

表2 露地栽培における9月の果実品質

	1果重	糖度
	g	%
とよのか	9.8	10.2
北の輝	10.8	11.5

表3 露地栽培における9月の商品果収量

とよのか	652 kg / 10a
北の輝	920 kg / 10a



写真1 「北の輝」の果実